

**製品名: ATG9A (7Z14) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe07301**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.36mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:100,FC 1:20-1:50,IP 1:10-1:100
分子量	94kDa

**抗原情報**

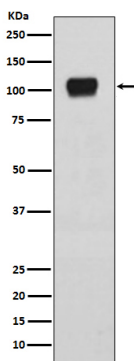
遺伝子名	ATG9A
別名	ATG9A; APG9-like 1; Autophagy 9-like 1 protein; Autophagy-related protein 9A; MGD3208; MATG9; APG9 autophagy 9-like 1; APG9L1; Autophagy related 9A;
遺伝子 ID	79065.0
SwissProt ID	Q7Z3C6
免疫原	ヒト ATG9A の合成ペプチド

## 背景

オートファジーおよび細胞質から液胞への輸送 (Cvt) 小胞の形成に関与する。隔離小胞形成の核となるプレオートファゴソーム構造 / ファゴフォア集合部位 (PAS) の構築に重要な役割を果たす。オートファゴソーム膜の拡張を媒介することでオートファジーに関与するリン脂質スクランブラーゼ (PubMed:22456507, PubMed:27510922, PubMed:29437695, PubMed:32513819, PubMed:33468622, PubMed:33850023, PubMed:32610138, PubMed:33106659)。プレオートファゴソーム構造 / ファゴフォア形成部位 (PAS) と細胞質小胞プールの間を循環し、成長中のオートファゴソームに膜を供給する (PubMed:16940348、PubMed:22456507、PubMed:33106659)。脂質スクランブラーゼ活性は、ATG2 (ATG2A または ATG2B) を介して到達したリン脂質を細胞質から二重層の内腔側葉へと分配することで、プレオートファゴソーム構造 / ファゴフォア形成において重要な役割を果たし、それによってオートファゴソーム膜の拡張を促進する (PubMed:33106659)。また、ホスファチジルイノシトール 4-リン酸をオートファゴソーム開始部位に供給するためにも必要であり、このプロセスは ARFIP2 に依存し、ARFIP1 には依存しない (PubMed:30917996)。オートファジーに加えて、壊死性細胞死にも関与する (類似性による)。

## 研究分野

## 画像データ



HepG2 細胞溶解物中の ATG9A 発現のウェスタン ブロット解析。